

シリーズ記念碑探訪 21

竣工記念碑

鷹巣町土地改良区

由

来

☆県営鷹巣三堰地区かんがい排水事業☆

三堰地区は鷹巣町本町を中心に東西に展開する整理済の平坦な集団地で、米代川と奥羽本線に挟まれた面積585.8haの地区である。

三堰とは、従来早口川より取水していた太田堰と米代川より取水している坊沢堰及び鷹巣堰でいずれも流れを斜めに横切った取水堰で、取水施設の構造は藩政時代からの倉留工法を受け継ぎ、沈枰続枰などの枰類を詰石により沈圧する仮説的な重力堰堤であった。従って洪水の都度、破壊流失しこれを復旧し或いは流心の変動に応じて河床を掘割ったりするため、年々莫大な費用と労力を投じてきた。

これらの、根本的解決策として三堰の合同事業が計画され、事業の促進陳情と改良区結束の準備が急速に進められることになった。

本記念碑は、こうした経緯から実施された鷹巣三堰地区県営かんがい排水事業の竣工記念碑で、碑文には事業の沿革として次のように刻まれている。



▲取水施設と竣工記念碑



▲竣工記念碑

『鷹巣、坊沢、太田の三堰地区は藩政時代より米代川及び早口川に取水堰根を設け農業用水を取水したが、歴年洪水のたび堰根の破損が重なり、受益農家積年の悩みであった。

加えて昭和36年7月の第二室戸台風は三堰に決定的な被害を与えるに及び三堰合同の早期着工を迫られる事態となった。

昭和37年3月に高野尻を加えた鷹巣町三堰土地改良区連合を設立、同年県営鷹巣地区用排水改良事業として総事業費2億7,019万円をもって着工、昭和41年3月に完成した。

然るに砂利乱掘による米代川の河床低下が著しく揚水に支障を生じ、国、県の改修を要請したところ、施設機能障害事業として国、県より85%の補助を得て、昭和55年より県営事業をもって揚水機場の更新及び河床低下を防ぐ床止工の工事に着手した。

斯くして工期七星霜、総事業費6億3,600万円を投じて完成、茲に852戸、484haの用水不安は全て解消されるに至り、受益農家の蒙る恩恵は計り知れない。』

昭和61年5月建立 鷹巣町土地改良区

—参考文献—

・秋田県土地改良史 ・農のいしぶみ